

第30回全国街路事業コンクール 第2次審査用資料

ふりがな 応募者名		びえいちょう 美瑛町
街路事業	ふりがな 事業の名称	びえいとしけいかくどうろ 3・4・4ごう まるやまどおりせいびじぎょう 美瑛都市計画道路 3・4・4号 丸山通整備事業
	ふりがな 事業主体	びえいちょう 美瑛町
	ふりがな 実施都市名	びえいちょう 美瑛町
事業概要 (400字以内)		本事業は、JR美瑛駅から丸山通商店街、役場庁舎など主要な生活関連施設を結び、市街地の中心商業軸となる3・4・4号丸山通について、自歩道の拡幅及び無電柱化を行うものである。 当事業区間は学校指定の通学路であるが、歩道幅員が狭く通行に支障をきたしていた。また、沿道には丸山通商店街があり、JR美瑛駅を背に十勝岳を眺望できる路線であるが、電柱及び電線類により景観が阻害され、無電柱化等の整備が完了している本通地区に比べ、歩行者の周遊が進まず、丸山通地区の活性化が図られていない状況にあった。 本事業にて自歩道の拡幅や無電柱化を行ったことにより、通学児童や観光客にとって安心安全な歩行空間を確保でき、また本通地区と一体となった、良好な街並み空間を創出することで、市街地の活性化を図る事ができた。
事業規模		○事業延長: 440m ○事業費: 約1.8億円 ○幅員: 18m(2車線) ○事業期間: 平成26年2月4日～平成29年3月31日
事業の目的		3・4・4号丸山通はJR美瑛駅から「丸山通商店街」を通る都市計画道路で、町の中心市街地の骨格をなす幹線道路であり、周辺にはJR美瑛駅、役場庁舎、道の駅びえい「丘のくら」、四季の情報館等の中核施設が位置する。 当事業は、狭小な自歩道の拡幅や無電柱化により、安心安全な歩行空間を形成し、さらに、良好な町並み環境の創出により周辺施設を訪れる歩行者の周遊を促進させることで、交流人口と商店街での滞在時間の増加により、中心市街地の活性化を図ることを目的とした。
事業効果 (効果一覧を参考に具体的な効果を記入)		・歩道の快適性向上、歩行者交通量の増加(約32%増 平成24年調査時: 歩行者 524人/12h、平成29年調査時: 692人/12h) ・中心市街地への入込客数の増加(主要3施設合計値)(約20%増 平成23年実績値: 369,619人/年、平成27年実績値: 443,005人/年) ・地域資源である「美瑛軟石」をイメージした街並み空間の創出。 ・沿道商店街の活性化(新規企業の立地2件)
地元対応等	・地域住民との協働等 ・事業反対等があったか ・合意形成等を図ったか ・地域に配慮した点	・丸山通周辺の地域住民による「丸山通街路整備事業連絡協議会」を創立し、当事業に対し地域の協力のもと、計画の検討や整備を進めた。 ・本事業に先立ち、H24年度に北海道大学観光学高等研究センターと連携協定を締結し、地域住民や観光客を対象としたアンケート調査や、町民ワークショップなどを行い、中心市街地での街路空間のあり方などを検討し、事業計画に反映した。 ・沿道に商店街を抱える路線のため、地域住民と合意形成を図った上で、街並空間に配慮した道路施設のグレードアップ(インターロッキングブロック舗装、加工縁石)を行った。 ・当事業と関連して都市再生整備計画事業・町単独事業により、デザイン照明、車道カラー舗装、地上機器の美装化枠、緑化施設を整備した。

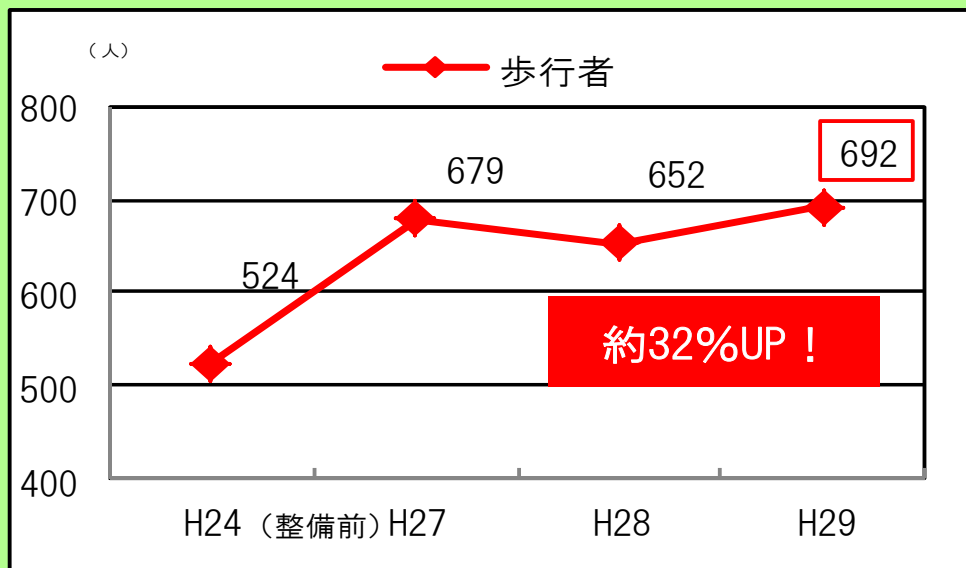


3・4・4号 丸山通 整備効果アピール資料(歩行者増加)

ゆとりのある歩行空間



にぎわいを見せる商店街



○ゆとりのある歩行空間や高質な道路空間が創出され、歩行者交通量が増加。

○整備前の平成24年時の歩行者交通量に比べ、整備後の平成29年時では30%強の伸び率を見せている。

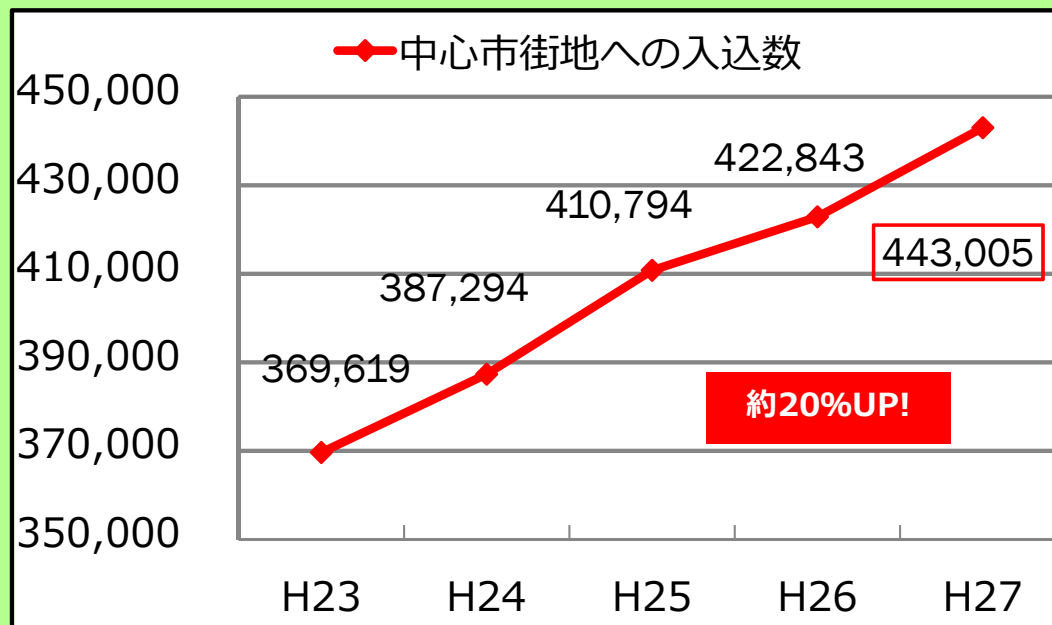
○歩行者交通量の増加に伴い、商店街の活性化にも寄与している。

3・4・4号 丸山通 整備効果アピール資料(中心市街地入込者数増加)

道の駅「丘のくら」・ふれあい館ラヴニール



四季の情報館



○中心市街地への歩行者動線を形成したことで、主要施設の入込数が増加した。

○整備前の平成23年時の入込数に比べ、平成27年時では約20%の伸び率を見せている。

事業前写真

平成22年5月撮影



事業箇所全景

平成23年7月撮影



車道の利用状況

平成24年5月撮影



歩道の利用状況

事業後写真

平成29年9月撮影



平成27年7月撮影



平成27年8月撮影



